

新教育大綱 ～「こどもまんなか」で、質の高い教育環境の充実を～ （「5つの柱」に沿う学校運営の実施）

学校教育目標 「心身ともに健康な子どもの育成」～思いやりの心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成～ **なかよく、かしこく、いきいきと**

<p>＜めざす子ども像＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 思いやりがあり、なかよく助け合う子ども ○ よく考え、自ら進んで学ぶ子ども ○ 健康で明るく、果敢にチャレンジする子ども 	<p>＜めざす学校像＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 思いやり、やさしさにあふれる学校 ○ どの子どもめあてをもち、活躍できる学校 ○ 子どもの歓声が上がる、楽しい学校 	<p>＜めざす教職員像＞</p> <p>常に危機管理意識をもち、子どもの力を伸ばすために努力を惜しまない、信頼される教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに対する温かな愛情をもち、一人一人を大切にしている教職員 ○ 子どもを伸ばすために、一時間一時間の授業を大切にしている教職員 ○ 子どもとともに汗を流し、時を守り、場を清め、礼を正す教職員 ○ 自らの専門性、指導力の向上のため、常に研修に努める教職員 ○ 教育公務員としての自覚をもち、各種法令の遵守、学習指導要領の具現化を図る教職員 ○ 時代の要請に応え、変化に柔軟に対応していく教職員 ○ よりよい結果を求めて協働し、情熱と忍耐をもってあきらめずにやり抜く教職員
<p>運（1）公教育の場として、充実した教育活動が展開され、児童・保護者・地域の信頼にこたえる学校</p> <p>営（2）職員一人一人がもてる力を発揮し、それぞれの役割を積極的に果たすとともに、調和のとれた教育活動が展開される学校</p> <p>目（3）児童一人一人のよさを見出し、可能性を引き出す教育活動が展開され、全ての児童が安心して学校生活を送ることができる学校</p> <p>標（4）時代の要請に応える、新しい学校教育の創造に挑んでいく学校</p>		

一人一人が考えを表現し合う中で多様な考えやよさを感じ、他者とともに学び合う子どもの育成

本年度の重点

＜重点1＞

子どもが学ぶ楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めていく教育活動

【学習規律の徹底】

- チャイムで始まり、チャイムで終わる。
- 姿勢を正し、心を揃える。学習道具を揃える。業間は次時の準備を行う。
- 最後まで相手（教師や友達）の話聞く。
- 正しい言葉づかいで教師も子どもも話す。（呼称は「さん」）
（教室の言語環境の最重要ポイントは担任の言葉、読みやすく正しい文字、適切な音量で明瞭な発音、適切な言葉づかい等に細心の注意を払う）

【学力向上・体力向上】

- 中井小スクールプランを共有し、全職員で取り組む。
- 専科指導・持ち合い授業の推進。
- 「学びの質を高める授業」づくり5つのポイントの徹底。
- ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの追求。
- ICTを活用した補充的な学習。（AIドリル等を活用して、子どもの理解度に応じた指導の個別化を図り、学習内容の確実な定着を図る）
- 体育科学習を要とする運動好きな子どもの育成。個の課題に応じた取組。
- 読書活動の推進。（「身近に本、気軽に読書」が合言葉。時間設定の工夫）
- 子どもの「つまずき」に寄り添う指導
（机間指導と「中井っ子タイム」の充実）
- 家庭学習・自主学習の推進（時間のめやすを示す・課題の工夫）
- 子どもひまわり学習塾の実施。（3、4年生希望者対象：算数科）

【誰一人取り残さない授業づくり】

- 「わかった!」「できた!」「やってみよう!」と、一人一人が達成感や充実感を味わえる「分かりやすい授業」の実現に積極的に取り組む。
- 失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる学習環境をつくる。
- 導入⇒めあての設定⇒自分で考える⇒みんなで考える（交流）⇒自分の考え⇒MYまとめ（子どもがまとめる）⇒振り返り（交流）
- 教師の説明ではなく、子どもが説明し合う授業。
- 指導と評価の一体化を図る。（一つ一つの教育活動のねらいを明確にして取り組む。何のために、何を目指して、そのために何を行うのか、整理して取り組む。1時間1時間の形成的評価を行い、記録に残す。）
- 授業でのつまずきに対する個別の支援を徹底して行う。（机間指導・対話）
- 学ぶ方法や考える道筋、到達目標、支援の手だて、内容習熟度まで個別化。結果よりプロセスを大切にしていく。
- 子どもがGIGA端末を日常使いできるようにしていく。（考えの共有場面、協働編集、調べる活動、録音、録画、写真撮影、記録、発表プレゼンなど）

【特別支援教育の充実】

- すべての子どもに関わるという視点をもって教育する。
- 子どもの小さな変容や努力、よさを見取り、褒めて伸ばす指導を行う。
- 他者への思いやりや多様性を理解する心で臨み、そして、育む。
- インクルーシブとユニバーサルデザインの具現化。（分かりやすさ）
- 合理的配慮についての校内検討と共通理解。

＜重点2＞

子どもが安心感を感じ、自己肯定感を高めていく教育活動

【挨拶があふれる学校】

- 挨拶は、「相手を大切に」行為と価値付け、教師がモデルとなる。
- 自分から挨拶をする指導。（友達に、教師に、地域の方に、来校者に）
- はっきりとした声で、相手の目を見て、止まって、一礼して、笑顔で、挨拶＋一言等、発達レベルに応じて。
- 時と場に応じる指導。

【規範意識の育成・環境を整える】

- 学校を綺麗にする。（みんなが使う場所、学校を大切にしている意識を育てる。誰が、どこを、どのように清掃するのか分かるようにしておく。）
- 環境を整える。（名札をつける。はきもの、机、いす、雑巾、足、持ち物「ランドセル、水筒、体操服、給食袋、プリント等」の置き場、子どもの動線）
- 廊下を歩く。静かに歩く。（登下校時と同じ）
- みんなの物を大事に扱う。（GIGA端末、様々な備品）

【いじめは絶対に許さないという意識の徹底】

- 些細なトラブルやふざけ合いも、対象者が嫌な気持ちになっている場合は、「いじめ」として積極的に認知する。
- 「ユニーク」と「ふざけ」の違いの指導。いじめは許さないという毅然とした指導を行う。
- いじめの芽を早期発見、早期対応ができるよう、全職員で取り組む。
- 年間3回のアンケート実施。アンケートは3年間保管する。
- 道徳科や北九州子どもつながりプログラムの実施。

【他者と関わり、知り合い、大切にしよう活動の実施】

- 友達のことや自分を取り巻く様々な人のことを知りたいという思いをもたせる活動を仕組む。
- 自分とは異なる考えや特性を認め、違うことの価値を実感できる学習活動を仕組む。
- 思いやりのある言動で誰かを助けたり、他者に配慮したり、折り合いをつけたりすることで得られる気持ちのよさや喜びを味わわせる。
- 対人スキルや心を育てる活動を工夫する。

【人権感覚を育む人権教育の推進】

- 体罰の禁止、言葉の暴力の禁止。子どもとの温かい関わり合いを・・・
- 温かい言葉を教師も心がけ、子どもたちの言葉のよさを教師が価値付ける。（ありがとう、すごい、さすが、やるね、どうぞ、大丈夫など）
- 子どもの言葉を真摯に聴く。
- 子どもの背景（家庭環境や様々な事情）を見取り、子どもに寄り添う指導を行っていく。

【キャリア教育の推進】

- 発達段階に応じて「こんな自分になりたい」という夢や希望、目標をもつことができるようにしていく。（将来の夢、年間目標、学期目標・・・）
- 自分や友達の成長を実感できるよう、節目、節目で成長を確かめ、ともに喜び合えるようにする。（「めあて（振り返り）シート」等への記録）

＜重点3＞

家庭・地域とのつながりの中で、子どもを育てる教育活動

【保幼小、小中一貫教育】

- それぞれの接続をスムーズにし、かつ、よりよい教育効果をあげるための活動や話し合いを積極的に行っていく。

【社会に開かれた教育課程・シビックプライドの醸成】

- 地域コミュニティとの連携・協働によって様々な社会体験を仕組む。地域の人・もの・こととの触れ合いを通して、中井のまちや北九州市のよさを伝え、自分の住むまちに愛着をもつ子どもを育てる。
- 「持続可能な社会を築く」ことを柱として、SDGsの視点から、生活科や総合的な学習の時間を中心に、全教科等のカリキュラムをデザインする。（地域、環境、キャリア、国際理解、平和）
- 中井の町→北九州市→国→世界と視野を広げながら、自分たちを取り巻く諸課題を解決する方法や、よりよい生き方を考える学習を展開する。
- 令和7年度、コミュニティ・スクールへの移行を見据える。

【危機管理の徹底】

- 問題事象には、即日対応する。怪我や対人トラブルなどの保護者連絡は、連絡帳ではなく、電話、又は、家庭訪問で。（危機管理のさしすせそ）
- 学年主任や管理職への「報告・連絡・相談・事後報告」を徹底する。
- 子どもの頑張りやよさなど、学校生活の様子を保護者に積極的に伝える。（個人的な内容は連絡帳や電話等で。学年行事の様子はTetoruで。）

【長欠・不登校対策】

- わかる授業づくりや、集団づくりを通じた未然防止の取組。
- ・全ての子どもにとって「居心地のよい学校」をつくる。（教師の言葉・働きかけ）
- ・「北九州子どもつながりプログラム」の活用。
- ・SCやSSW、関係機関との連携。
- ・ステップアップルームの活用。
- 初期対応の取組
- ・欠席理由を丁寧に聞き取り、子ども・保護者に寄り添った言葉かけを行う。
- ・連続2日（不登校・無断）欠席した場合は、家庭訪問を行い、子どもや保護者との信頼関係づくりに努める。
- ・校内に居場所をつくる。（オンライン授業も居場所。一人一人の状況に応じた支援を行い、全職員で対応する。ケース会議の適時実施。）
- 学校外での居場所や学びの場との連携
- ・教育支援室、オンライン支援室（5、6年）、フリースクール等との連携。

【学校HP、Tetoruの有効活用】

- 学校DX化の推進。

【食育の推進】

- 給食を生かした食育指導を行う。※強制はしない。昼休みを確保する。

【防災・減災教育】

- 安全な教室環境づくり、施設点検の実施。
- 下校時間の遵守。学年で揃える。子どもだけで、忘れ物を取りに戻らない。

